

番号	12	令和7年度公共事業再評価調書					担当課名	河川海岸整備課													
事業名	地震・高潮対策事業					事業主体	静岡県														
箇所名	にきゅうかせんまごめかわ 二級河川馬込川					関係市町	浜松市														
事業採択年度	令和1年度		計画期間	令和1年度～令和9年度																	
用地着手年度	令和ー年度		工事着手年度	令和1年度																	
再評価理由※	社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要性が生じた事業																				
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～R5年度	R6年度	R7年度見込	計															
	9,700		2,920	3,985	286	7,191															
事業概要	(1)事業目的 二級河川馬込川の津波対策により、川を遡上する津波による浸水被害を減らし、地域の安全性を向上させる。																				
	(2)事業内容 二級河川馬込川の河口に津波遡上を防ぐ水門（高さTP+8.0m・幅90m）を整備するとともに、すでに整備済の防潮堤から水門までの間をつなぐ河川堤防（左岸230m右岸80m）を整備する。																				
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・東日本大震災を受け、H25から浜松市沿岸域で津波対策としての防潮堤整備が始まり、遠州灘に注ぐ馬込川についてもH31に水門整備により実施することが決定した。 ・防潮堤の整備はR2.3月に完了し、浜松市沿岸域17.5kmのうち馬込川河口部の400mを残すのみとなっており、地域の安全確保のために早急な整備完了が求められている。 ・背後地には浜松市旧南区役所、江之島高校、江南中学、特別支援学校等が存在し、想定される津波が発生した場合の被害は甚大である。 ・馬込川左岸において浜松市によるビーチコートの整備が進められるなど、水門整備とともに隣接する中田島砂丘などの観光資源を含めた沿岸部の利活用促進に向けて地域の期待が高まっている。																				
事業の必要性	(2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果（令和7年度時点）																				
	<table><tr><td>B/C（i=4%）</td><td>参考:B/C（i=2%）</td><td>参考:B/C（i=1%）</td><td colspan="4">EIRR</td></tr><tr><td>5.7</td><td>5.4</td><td>5.1</td><td colspan="4">209.7%</td></tr></table>							B/C（i=4%）	参考:B/C（i=2%）	参考:B/C（i=1%）	EIRR				5.7	5.4	5.1	209.7%			
	B/C（i=4%）	参考:B/C（i=2%）	参考:B/C（i=1%）	EIRR																	
	5.7	5.4	5.1	209.7%																	
	・総便益（B）603.5億円（被害軽減便益：603.5億円） ・総費用（C）105.7億円（建設費：97.6億円、維持管理費：8.1億円）																				
○見込まれる効果（定性的な効果） ・被災可能性に対する地域住民の不安低減と居住の継続や新たな移住者が期待される ・安全度の向上による地価の上昇や土地の利活用の増加																					
(3)事業の進捗状況（令和7年度見込み）																					
	区分		進捗率	内 訳																	
	事業費		74.1%	（7,191百万円／9,700百万円）																	
事業量	水門工		0.0%	（0基／1基）																	
			-	（-／-）																	
	用地取得		-	（-／-）																	
			評価	継続が妥当																	
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み ・本体部の工事が概ね完了し、津波遡上を防止する扉体も工場から順次搬入中。 ・令和6年度からは横堤工や管理橋工などの附帯工事にも着手している。 ・令和7年度以降は水門稼働に向け、電気・遠方監視制御設備などの設置を行う予定。 ・現在、工事は順調に進捗しており、令和9年度の供用開始を見込んでいる。																				
			評価	継続が妥当																	
【視点3】	新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性 ・築堤に用いる土砂の確保について、公共事業での発生土砂を積極的な流用や、横堤工における堤防被覆において、コンクリート2次製品を活用する事でコスト縮減に努めていく。																				
対応方針（案）	(1)対応方針（案） 本事業を【継続】する。																				
	(2)理由 ・浜松市沿岸域の防潮堤整備は17.5kmがR2.3月に完了し、水門を含む馬込川河口部400mを残すのみとなっており、背後地には旧区役所や学校が立地し、津波発生時の被害が甚大であることから、地域から早急な整備完了を求められている。 ・また、沿岸部の安全確保に合わせて、隣接する中田島砂丘などの観光資源を含めた沿岸部の利活用促進に向けて地域の期待が高まっていることから、事業を継続する。																				

費用便益比算出説明書

二級河川 馬込川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和6年4月)

総括表

総便益 B	[治水事業を実施しない場合の被害額]－[治水事業を実施した場合の被害額]	60,347百万円
総費用 C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	10,574百万円
B／C		5.7

総便益

○治水事業の有無による被害額の差分
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間59年(整備期間9年＋50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値
評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

B = 津波発生時点における被害額に対して、施設整備後の被害額を引いた「被害軽減額」
= 112,080 百万円 - 51,733 百万円
= 60,347 百万円

※ 被害額は津波による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※ 津波対策水門における便益の算出については、治水経済調査マニュアル記載の計上方法では算出できないため、津波発生時点における被害額に対して、施設整備後の被害額を引いた「被害軽減額」を総便益として算出する。

総費用

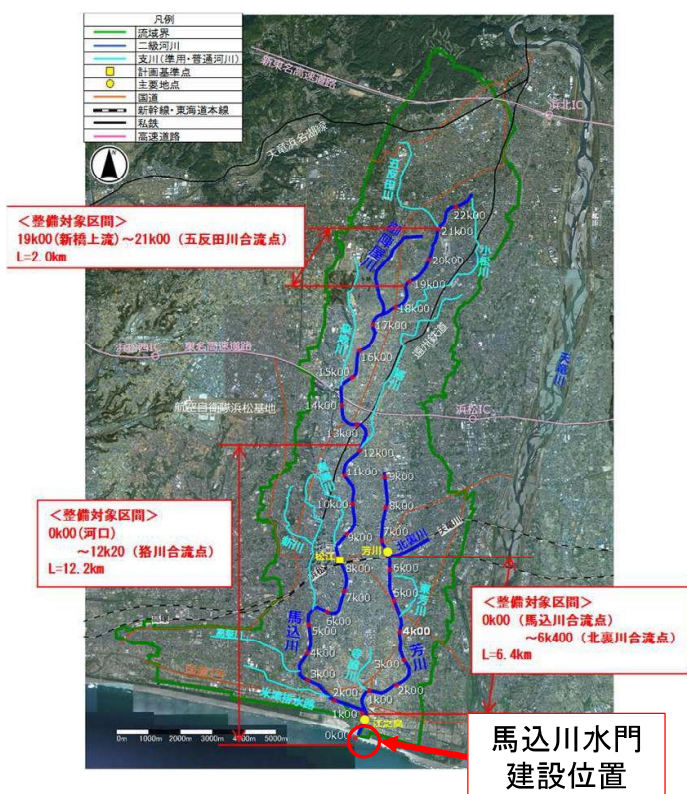
○事業建設費
各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費
近傍の同規模の水門の長寿命化で設定
評価対象期間:50年

総費用

C = $\sum$ 各年事業建設費 / $(1+0.04)^n$ + $\sum$ 年間維持管理費 / $(1+0.04)^n$
= 9,760.9 百万円 + 812.7 百万円
= 10,573.6 百万円

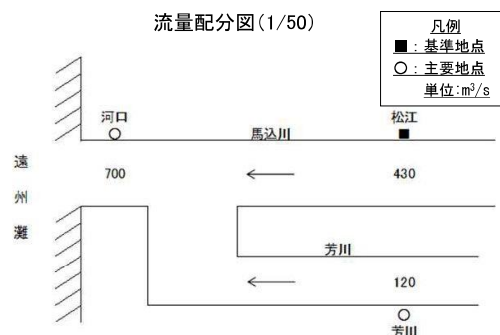
1. 事業箇所位置図



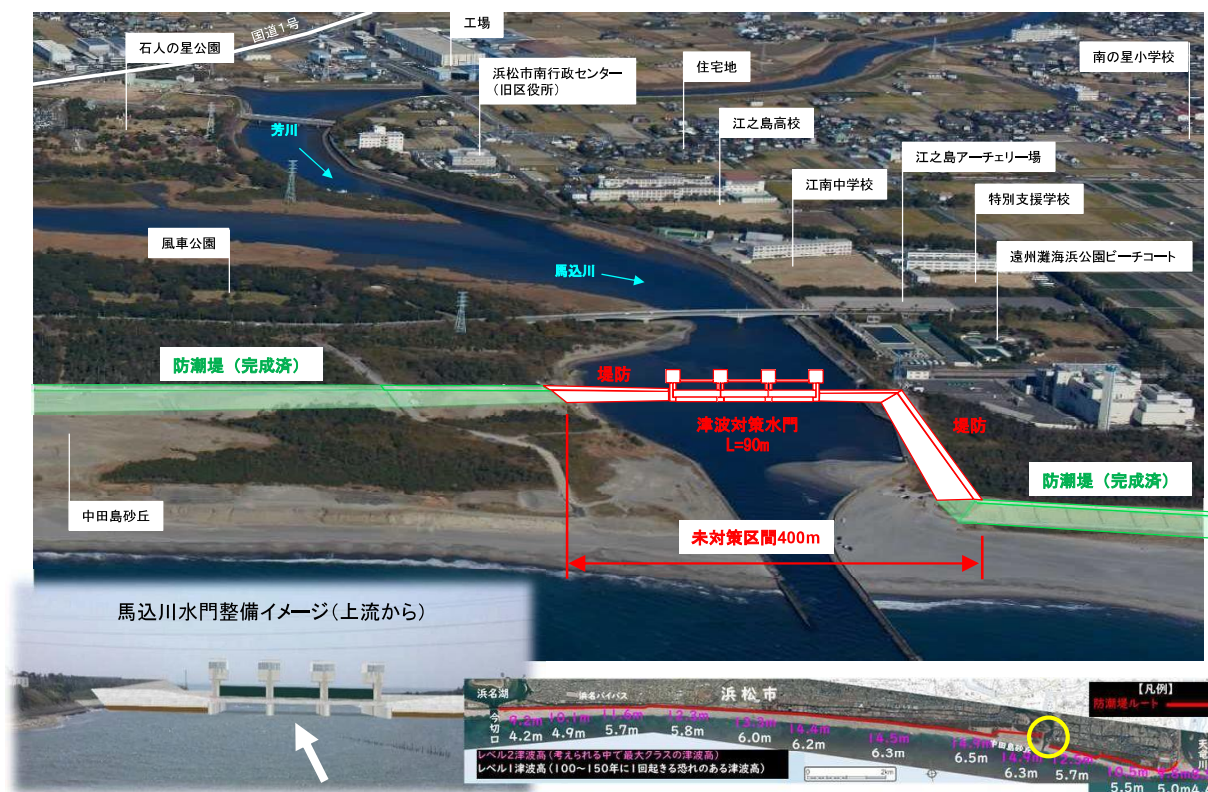
河川整備計画の主要な整備箇所

河川名	延長	整備内容
馬込川	12.2km (0k00 ~ 12k20) 2.0km (19k00 ~ 21k00)	河床掘削 護岸整備
芳川	6.4km (0k30 ~ 6k40)	河床掘削 護岸整備
馬込川	河口	水門設置

流量配分図 (1/50)



1. 事業箇所位置図



2. 事業概要

＜事業目的＞

南海トラフ巨大地震発生で想定されるレベル2津波から、背後地の浸水被害を減災し、住民の生命・財産を守ることを目的とする。

事業期間	令和元年度～令和9年度
津波対策内容	水門1基(幅30m×3門)、横堤186m、河川堤防214m
全体事業費	97億円
投資状況	71.91億円(74.1%)

前回からの変更点・理由

	前回	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	R1～R9	R1～R9 (変更なし)	—
②全体事業費	8,400百万円	9,700百万円 (+1,300百万円)	物価及び労務費の上昇

4

2. 事業概要

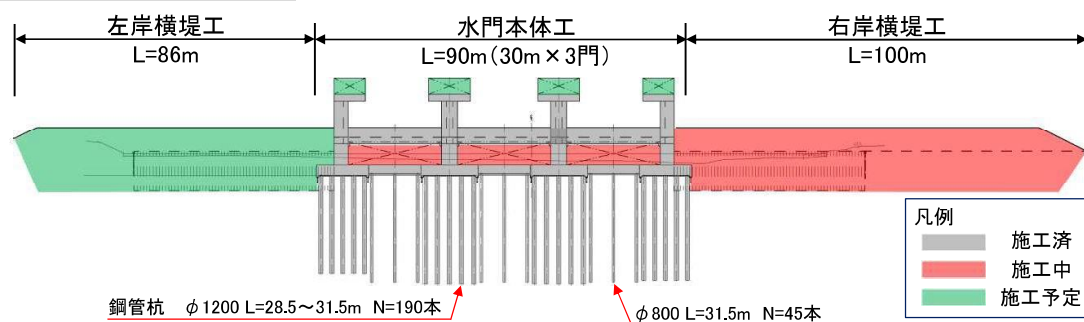


完成目標は令和9年度

年度	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
工事内容	仮締切設置	①水門本体(基礎・躯体)	②扉体(設計・製作・設置)	③左右岸堤防	切替	撤去	



正面図(上流から下流)



5

3. 事業の投資効果（費用便益比）

総便益(B) = 603.5(億円)

➤被害軽減期待額 105.4(億円)

※津波による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 ー (億円)

総費用(C) = 105.7(億円)

➤建設費(現在価値化) 97.6(億円)

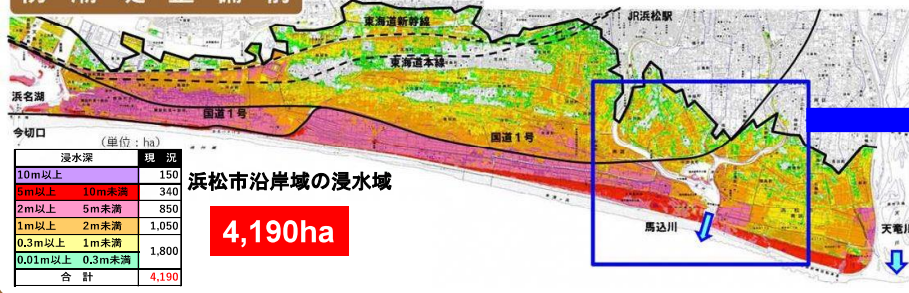
➤維持管理費(現在価値化) 8.1(億円)

費用便益比(B/C) = 5.7

6

3. 事業の投資効果

防潮堤整備前



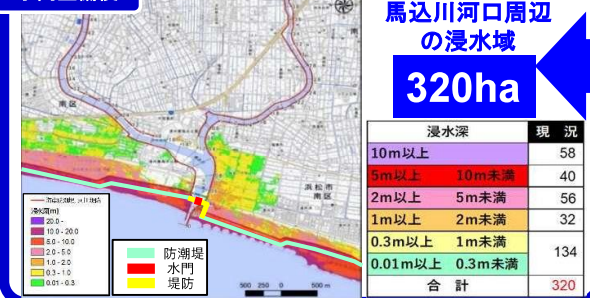
馬込川河口周辺
の浸水域

1,068ha

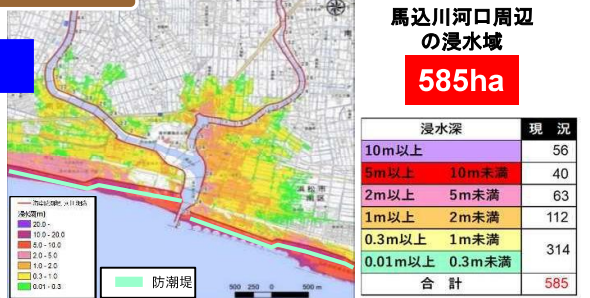
浸水深	現況
10m以上	23
5m以上 10m未満	125
2m以上 5m未満	144
1m以上 2m未満	275
0.3m以上 1m未満	501
0.01m以上 0.3m未満	501
合計	1,068

馬込川水門によりレベル2 津波の浸水域は約70% 減少

水門整備後



防潮堤のみ



区分	防潮堤のみ	水門整備後
宅地の浸水面積	64%低減	89%低減
うち浸水深2m以上	93%低減	98%低減

浸水深2m以上の宅地面積では、98%の低減効果

浸水深2mを超えると木造家屋の全壊割合が大幅に増加する。

7

4 . 事業の進捗状況（令和7年度末見込み）

令和3年6月



令和5年1月



現在の整備状況（令和7年3月）



令和3年7月



令和5年6月



令和3年8月



令和6年6月



令和4年6月



令和6年7月



【事業の進捗状況】
事業費 74% (72億円／97億円)

8

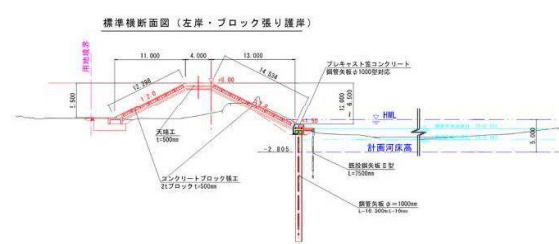
5 . 今後の事業の進捗の見込み

- 本体部の工事が概ね完了し、津波遡上を防止する扉体も工場から順次現場に搬入中。
- 令和6年度からは、横堤工や管理橋工などの附帯工事にも着手している。
- 令和7年度以降は水門稼働に向け、電気・遠方監視制御設備などの設置を行う予定。
- 現在、工事は順調に進捗しており、令和9年度の供用開始を見込んでいる。



6 . 新たなコスト削減・代替案立案等の可能性

- 築堤に用いる土砂の確保として他の公共事業で発生した土砂の積極的な受け入れや、横堤工における堤防被覆にコンクリート2次製品を活用することにより、一層コスト削減に努めていく。



9

7 . 対応方針（案）

- 費用対効果も認められ、地元住民の津波対策水門工事に対する期待は大きく、早期完成が望まれている。
- 馬込川河口の津波対策が完了することで、浜松市沿岸域全域での津波減災効果が発揮される。
- 令和9年度の完成に向けて、計画的に工事が進捗しており、工事に対する地域の理解もあり、今後の確実な進捗も見込める。



早期の浸水被害解消のため
事業を継続する